

家庭科教諭 教員免許状更新講習（平成 27 年度）を終えて

1. 講習のねらい

平成 27 年度に本学が開講した教員免許状更新講習のうち、選択領域「家庭科」について実施概要を報告する。3 名の本学人間生活学部人間生活学科教員（伊井，岡崎，田中）により，講習名「家庭科（食・住領域）を通して防災教育を学ぶ」をおこなった。この講習では，防災教育の視点を取り入れつつ，総合的に家庭科を教えるためのカリキュラムを検討することを目的とし，新しい知識の習得だけではなく，参加者同士の議論をとおして，「学力」や「評価方法」についての最新の動向についても学習し，自分の授業に還元することを目指した。

2. 講習の実施状況

講習は平成 27 年 8 月 6 日に花川キャンパスにおいて実施した。参加者は道内の家庭科の教員免許を持っている 7 名。当日は 9 時に開始し，1 時間を 60 分単位として 6 時間目まで実施した。なお 6 時間目では試験を実施した。各時間の内容は以下になる。

- 1 時間目・・・家庭科における防災教育
住領域から防災について考える
- 2 時間目・・・食領域から防災について考える
- 3 時間目・・・活動：「非常用持ち出し袋を作ってみよう」
- 4 時間目・・・授業のデザインとは
- 5 時間目・・・評価の新しい方法
- 6 時間目・・・試験

3. 講習の内容

（1）家庭科における防災教育の位置づけ

家庭科における防災の位置づけについて，家政学の立場から解説をした。また，中学校と高等学校それぞれの学習指導要領と教科書を確認しながら，家庭科の中で防災について取り組んでいくことの必要性和，取り組みの視点について考える授業をおこなった。

（2）「住領域における防災」の内容

住領域の中のどの範囲に防災のことが書かれているのかを教科書を通して確認した。自助・共助・公助の視点から家庭科においてはどのような取り組みが大切かを説明し，実際に家庭内 DIG をおこなって自宅にいた際の安全確認とどのように避難するのかを間取り図を書いて考えた。そして，参加者同士が図を見せ合い，意見交換をした。

（３）「食領域における防災」の内容

食領域においては、災害時における食生活上の課題について考えた。まず、避難時の食事内容は、炭水化物に偏る場合があり、食物繊維、ビタミン、ミネラルなどが不足する可能性があることを確認した。次に災害時の非常食の補助としては、サプリメントや粉末状の食物繊維を備えておくといふことを具体的な食品を例に挙げて説明した。

（４）授業デザインと新しい評価方法について

現在、文部科学省では数年後に実施される次期学習指導要領の最終調整の段階である。ここでは、現学習指導要領でも提示されている言語活動や思考力・表現力・判断力など、基礎的・基本的な知識技能を「活用」する力を、更に発展させた 21 世紀型能力を修得させることを目指している。そのための手段として、アクティブラーニング（能動的学習）が脚光を浴びている。このアクティブラーニングは、単に従来型の教授法の変化にとどまらず、教育評価についての教員の考え方も変えなくてはならない。以上のような、文科省が提示している状況と、その動向を踏まえた上での授業デザインや評価方法について、履修者の中で情報交換・ディスカッションを行った。

4. 講習を終えて

受講者の事後アンケートへの記入内容から以下に一部を抜粋する。

- ・今日学んだことを自分の授業で生かしていきたい。
- ・あまり評価について考えていなかったが、今回その重要性を認識した。これからも授業を頑張ろうと思った。
- ・今日学んだアクティブラーニングの方法を授業でも実際にやってみたい。
- ・様々な学校で教えている受講者同士で意見交換できたことが大変良かった。今後の授業の参考にしたい。

上記のようにこれから実際に現場で役立てていけるという前向きな感想が多くみられた。これからも家庭科に関わる教員免許状更新講習のなかで、新しい知識や役立つ経験を提供できるように努力していきたい。

伊井 義人・岡崎 由佳子・田中 宏実（藤女子大学人間生活学部）